

養育支援訪問事業訪問員による母親への支援プロセス

－ 訪問員と母親の対話によって生まれる相互変容に着目して －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
山脇 典子

本研究の目的は、養育支援訪問事業における訪問員の支援プロセスを、訪問員と母親の相互変容に焦点を当てて明らかにし、児童虐待防止対策と子育て支援を繋ぐ可能性を検討することである。本研究では訪問員7名に家庭訪問の体験について半構造化面接を実施し、得られたデータに対し修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析を行った。

その結果、訪問員は、「専門職」と「生活者」の両面を母親に見せ、母親と信頼関係を構築し、母親の主体性を尊重しながら間接的に母親の強みや可能性を伸ばす援助をしていた。そして時に支援に行き詰まりつつも、終始母親の話を聴き続け、支援者としての視点を柔軟に変化させていた。母親は訪問員に具体的な育児方法を確認し、周囲への不満や成育歴を伝える段階を経て育児の自信を徐々に深め、自然に一人立ちを遂げていた。訪問員と母親の間には相互変容と互惠的關係が形成され、訪問員の支援プロセスは、リスク管理に偏重している児童虐待防止対策において子育て支援の視点を維持し、双方を繋ぐ可能性を含むことが示唆された。